

皮膚科のトリビア

242

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●某製薬会社主催Webセミナーから

令和6年4月25日

CD39と亜鉛欠乏症の関係

CD39分子は内在性膜糖蛋白質であり、ATPaseやADPase活性を有する細胞表面のヌクレオチド加水分解を担う主要な酵素ファミリーに属する。CD39抗原は活性化リンパ球、制御性T細胞、B細胞、樹状細胞に発現しており、炎症の火消し役を務める分子である。亜鉛が欠乏すると、ATPを不活性化分子であるCD39を発現するランゲルハンス細胞が喪失し、さらにATP分解酵素の機能が低下する。亜鉛欠乏によって生じる刺激性皮膚炎や褥瘡、皮膚の脆弱性との関連が指摘されていて、スキンテアの患者では亜鉛の血中濃度が、15人中12人で60 $\mu\text{g}/\text{dL}$ だった。

一言コメント

「講演の中で、脂漏性皮膚炎は遊離脂肪酸による刺激性皮膚炎であり、亜鉛の投与で改善する例があるという指摘があった。亜鉛華軟膏の外用は成人例ではあまり試したことがない。重症例では採血と内服による亜鉛補給も考えてみようと思った。」

●某製薬会社主催Webセミナーから

令和6年4月25日

lipocalin-2, LL-37はSJS/TENのマーカーである

SJS/TENでは好中球に明らかな形態異常が存在

し、それがneutrophil extracellular traps (NETs)の形成によるものであることが知られている。NETsの形成は原因薬剤、CD8陽性細胞障害性T細胞、抗原提示細胞の3つの要素が重なることで生じる。CD8陽性細胞が産生する分子であるlipocalin-2の作用によってNETsが形成され、NETsに含まれる分子LL-37が、表皮細胞に受容体formyl peptide receptor1 (FPR1)の発現を誘導。FPR1を発現する表皮細胞は、単球が産生する分子annexin A1の作用によってネクロプトーシスという細胞死に陥る。lipocalin-2, LL-37を測定することで、SJS/TENの早期診断が可能になり、lipocalin-2, LL-37の機能を抑制する薬剤が開発できればSJS/TENの新規治療薬となることが期待される。

一言コメント

「lipocalin-2は好中球ゼラチナーゼ関連リポカリン(neutrophil gelatinase-associated lipocalin: NGAL)とも呼ばれ、心血管疾患、虚血性脳卒中、急性腎損傷、炎症および代謝性疾患の重要なバイオマーカーであり、ヒト血清、唾液、尿中で検出できる。すでに急性腎障害のマーカーとして尿中NGALが保険収載されているという。知らなかった。」

●日本皮膚科学会第911回東京地方会から

令和6年5月18日

粘膜症状のない抗ラミニン332陽性類天疱瘡の特徴

90歳代男性、2年前から体幹に褐色斑が生じ、さらに1カ月ほど前から四肢に水疱が出現した。褐色

斑は皮膚形質細胞症、水疱は表皮下で1M生食剥離皮膚を用いた蛍光抗体間接法では真皮側にIgGの沈着があったためラミニン332類天疱瘡と診断した。粘膜に症状はなし。粘膜病変を欠く抗ラミニン332類天疱瘡はこれまで7例の報告があり、全員が男性、7例中4例に乾癬を、2例に糖尿病を合併していたが、内臓悪性腫瘍の併発は1例のみであった。

一言コメント

「抗ラミニン332粘膜類天疱瘡とは、抗原が同じであってでも違った特徴を有する疾患であるように思った。乾癬の合併が粘膜の病変を打ち消す可能性があるとの報告がある。貴重な報告だった。」

●某製薬会社主催講演会から

令和6年6月1日

ペンクルマーカによる発汗テスト

水で消える特性をもつホワイトボードマーカ（商品名：ペンクル，株式会社サニー）を用いて発汗異常のスクリーニングを行った。正常ボランティアと手掌多汗症患者とともに発汗によってマーカの退色が確認できた。部分的に発汗低下を伴う後天性乏汗症患者についてヨウ素デンプン反応法（Minor法）と比較したところ、ほぼ同程度に無汗域を確認できた。ペンクル法は発汗異常の簡単なスクリーニング法として有用である。

一言コメント

「Minor法より簡便にできそう。一度試してみよう。」

●第123回日本皮膚科学会総会から

令和6年6月7日

抗OX40L抗体によるアトピー性皮膚炎治療

OX40はTNF受容体(tumor necrosis factor receptor : TNFR) スーパーファミリーの分子で、主に活性化したT細胞に発現し、樹状細胞をはじめとした抗原提示細胞上のOX40 ligand(OX40L)と結合することで、とくにTh2細胞の活性化やサイトカイン産生反応の増加に寄与する共刺激分子

として知られている。アトピー性皮膚炎などの自己免疫疾患やアレルギー疾患では、OX40を発現するT細胞が病変部位に存在し、炎症を促進していることが知られている。中等症ないし重症のアトピー性皮膚炎の成人274例を対象に、抗OX40抗体rocatinlimabの有効性を検討した第IIb相臨床試験では、被検者にrocatinlimabまたはプラセボを2週おき、ないし4週おきに皮下投与した。16週時点のEASIスコアの減少率は、プラセボ群-12.8%に比べて、投与群では150 mg 4週おき-48.4%、600 mg 4週おき-59.3%、300 mg 2週おき-57.0%、600 mg 2週おき-68.1%と有意に低下した。

一言コメント

「amlitelimabという抗OX40受容体に対する抗体も中等症、重症のアトピー性皮膚炎を対象とした臨床試験が進行中で、有効性が示されている。こちらは投与を終了したあとも有効性が長期間持続していることに注目が集まっているようだ。」

●第123回日本皮膚科学会総会から

令和6年6月7日

ジャスミンによる白斑治療

ジャスミン(株式会社ジャパン・ティッシュエンジニアリング)は1年以上既存の治療で反応せず症状が固定した白斑に対して、外科的治療として用いるメラノサイト含有自家培養表皮である。分層植皮術や吸引水疱蓋形成といった既存の外科的治療と比較して、少ない面積の皮膚組織を用いた培養表皮のため、患者への侵襲が比較的少ないのが特徴。2024年10月から保険償還が可能となった。薬価は組織運搬セットが4,460,000円、培養表皮パッケージが1枚154,000円である。自家培養表皮ジェイスは30%以上の重症熱傷、先天性巨大色素性母斑の治療、表皮水疱症にも保険適用がある。

一言コメント

「再生医療も進歩してきているが、コスト的にはまだ一般的でない。今後の量産化によるコストダウンに期待がかかる。」